

塚本澄子先生略歴及び主要研究業績

I 略歴

1945年5月31日生まれ 2008年11月9日ご逝去

1 学歴

- 1968年3月 弘前大学教育学部中学校教員養成課程（国語科）卒業
- 1969年4月 北海道大学文学部国文科研究生（1972年3月まで）
- 1972年4月 北海道大学大学院文学研究科修士課程入学
- 1974年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了（文学修士）
- 1974年4月 北海道大学大学院文学研究科博士課程入学
- 1976年4月 東京大学大学院文学研究科留学（稲岡耕二教授の指導を受ける。1978年3月まで）
- 1980年3月 北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学

2 職歴

- 1968年4月 青森県川内町立蛸碓中学校教諭（1969年3月まで）
- 1969年4月 札幌第一高等学校非常勤講師（1970年3月まで）
- 1970年4月 札幌女子高等学校非常勤講師（1976年3月まで）
- 1975年4月 札幌市医師会高等看護学校非常勤講師（1976年3月まで）
- 1980年4月 作新学院女子短期大学専任講師
- 1984年4月 作新学院女子短期大学助教授
- 1990年4月 聖徳学園女子短期大学非常勤講師（1992年3月まで）
- 1992年4月 作新学院女子短期大学教授（2002年3月まで）
- 2002年4月 作新学院大学人間文化学部人間文化学科教授
- 2002年4月 作新学院大学人間文化学部人間文化学科長（2004年5月31日まで）

3 学会及び社会における活動

- 1974年4月 北海道大学国語国文学会・万葉学会・古代文学会・古事記学会・上代文学会・美夫君志会・各会員
- 1975年4月 藝林短歌会同人
- 1999年4月 上代文学会理事

Ⅱ 主要研究業績

(著書)

1. 『日本文学新見－研究と資料－』（共著）1976年3月 笠間書院 57～64頁「泊瀬歌謡の性格」を執筆。
2. 『万葉集を学ぶ』第8集（共著）1978年12月 有斐閣 293頁「古代語発掘」の「見る」について執筆。
3. 『万葉とその伝統』（共著）1980年6月 桜楓社 9～36頁「孝徳・斉明紀の挽歌における詩の成立の問題」を執筆。
4. 『万葉集事典』（共著）1993年8月 学燈社 88～98頁「万葉集名歌事典」、巻10、2233と巻11、2357を担当。
5. 高岡市万葉歴史館論集10『女人の万葉集』（共著）2007年3月 笠間書院 31～63頁「挽歌をよむ女」を執筆。

(学術論文)

1. 「額田王－その挽歌の性格について－」（単著）1972年8月 北大古代文学会『研究論集Ⅱ』61～71頁
2. 「挽歌発生前史における葬歌の意義」（単著）1977年2月 北海道大学国語国文学会『国語国文研究』第57号 19～33頁
3. 「万葉集相聞歌における「見る」歌の発想」（単著）1981年12月『作新学院女子短期大学紀要』第6号 59～78頁
4. 「齐明天皇－その歌人的性格について－」（単著）1983年12月『作新学院女子短期大学紀要』第7号 1～28頁
5. 「倭大后の挽歌の世界－「玉かづら」の解釈をめぐって－」（単著）1985年12月『作新学院女子短期大学紀要』第9号 21～36頁
6. 「万葉集における「影」と「面影」－倭大后の挽歌の「影」の意味－」（単著）1986年12月『作新学院女子短期大学紀要』第10号 13～27頁
7. 「中皇命、紀の湯に往く時の御歌」（単著）1987年12月『作新学院女子短期大学紀要』第11号 45～66頁
8. 「「女の挽歌」存疑－天智天皇挽歌群をめぐって－」（単著）1988年12月『作新学院女子短期大学紀要』第12号 27～50頁
9. 「都意識と大宮人」（単著）1990年11月『作新学院女子短期大学紀要』第14号 29～46頁
10. 「蒲生野の贈答歌」（単著）1990年12月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』

第2号 15～25頁

11. 「吹黄刀自の歌－十市皇女の人間像」(单著) 1991年11月『作新学院女子短期大学紀要』第15号 1～24頁
12. 「古事記に見る「をとめ」像」(单著) 1991年12月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』第3号 1～17頁
13. 「上代文学に見る桜－「うるはしきをとめ」の物語」(单著) 1993年7月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』第5号 25～38頁
14. 「十市皇女挽歌」(单著) 1994年11月『作新学院女子短期大学紀要』第18号 33～50頁
15. 「柿本人麻呂の死の表現」(单著) 1995年12月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』第7号 1～16頁
16. 「小野小町説話の基層」(单著) 1996年12月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』第8号 1～12頁
17. 「「うらぶれて」行く人－巻13, 3303・4番歌について－」(单著) 1998年12月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』第10号 1～15頁
18. 「他界への旅－万葉挽歌の表現に見る－」(单著) 2001年3月 作新学院女子短期大学国文学会『作新国文』第12号

(その他)

1. 『日本文学全史 I 上代』(共著) 1978年10月 学燈社 458～467頁 総索引を小野寛と担当。
2. 『日本書紀歌謡全訳注』(編集共著) 1981年8月 講談社(講談社学術文庫)
3. 『散りのまがひ』(单著) 1995年3月 藝林発行所『藝林』第58巻3号
4. 「衣通姫の流」(单著) 1996年1月 藝林発行所『藝林』第59巻1号
5. 「山吹の花の歌一首」(单著) 1996年9月 藝林発行所『藝林』第59巻9号
6. 「黄葉の過ぎにし人」(单著) 1998年1月 藝林発行所『藝林』第61巻1号
7. 「挽歌と相聞のあいだ」(单著) 1998年10月 藝林発行所『藝林』第61巻10号
8. 「月待ちていませわが背子」(单著) 1999年7月 藝林発行所『藝林』第62巻7号
9. 「毛桃の下に月夜さし」(单著) 2000年5月 藝林発行所『藝林』第63巻5号
10. 「月下の恋」(单著) 2001年3月 藝林発行所『藝林』第64巻3号